

いずのくにのおはなしのくに ~ようこそ!おはなしのせかいへ~

国内外で活躍中の語り手たちが“楽しく”「おはなしのくに」を盛り上げます。
聞き手参加の話、世界・日本の昔話など“たっぷり”おはなしを届けます。

とき／5月21日(日) 11:00～12:00
ところ／葦山時代劇場 映像ホール
対象／子どもから大人までどなたでも
協力／NPO法人 全日本語リネットワーク
※事前申し込みは必要ありません。直接会場へどうぞ。



中央図書館 ☎ 0558-76-5566

図書館だより

今月のおすすめ ~おでかけしましょ~

県内のおでかけスポットやコースを紹介する本を参考に、地域の魅力や自慢を見つけてみませんか。



『3丁目の昭和—静岡県に残る昭和レトロな世界へご案内』
静岡新聞社(編)

SBSテレビのニュース情報番組の人気コーナーをまとめた本。地区ごとの、懐かしい店構えや昭和の味が満載。【中央】



『しずおかマイスターの逸品—いいものが見つかる、こだわりの雑貨店&専門店』静岡新聞社(発行)

暮らしが楽しくなる、お気に入りの雑貨に出会える本。オーブオイル、チーズなど、こだわりの専門店も掲載。【葦山】

■たのしい「おはなし」

「おはなし」「語り」「ストーリーテリング」。さまざまな呼び方のこれらは、本も何も用いずに言葉だけで物語を届ける手法のことです。ふだん学校、幼稚園などでお話を届けていますが、図書館のイベントでは、大人も楽しいひとときを体験してください。



図書館カレンダー
モバイル版QRコード

■『伊豆の山歩き海歩き—伊豆半島ジオパークトレッキングガイド』

静岡新聞社(企画・編集)【中央】

■『しずおかアートさんぽ』静岡新聞社(企画・編集)【中央】

■『静岡とっておきのマルシェ&市めぐり』静岡新聞社(編集)【葦山】

■『静岡県の歩ける城70選』加藤理文(著)【葦山】

■『世界に一つだけの深海水族館』石垣幸二(監修)【中央・葦山】

5月の休館日 中央図書館 1日(月)、3日(水・祝) 葦山図書館 3日(水・祝)、4日(木)~5日(金・祝)、8日(月)、15日(月)、祝、6日(土)、10日(水)、17日(水)、22日(月)、26日(金)、29日(月) 24日(水) 26日(金) 31日(水)

開館時間(共通) 9:00~17:30 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/>

■5月のおはなし会

※いずれも土曜日

中央図書館

13日 11:00~

葦山図書館

13日、27日 14:00~

あやめ会館

20日 10:30~

文化財通信

その143

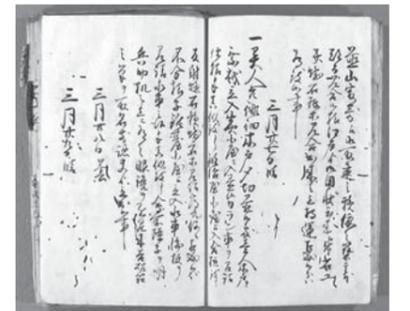
葦山反射炉の築造担当者「八田兵助」(その2)

市役所文化財課
☎ 055-948-1428

本 郷村(現下田市)での反射炉築造は、安政元年(1854)1月16日、大工による細工小屋の建築工事から始まり、2月1日には反射炉本体の基礎工事、2月17日には煉瓦の製作が始まり、反射炉築造も本格化します。現地でこれらの工事を指揮していたのが、反射炉御用懸の一人である八田兵助です。

ちょうど同じ頃、ペリー艦隊が再び来航、横浜において条約締結の交渉が行われていました。交渉の結果、3月3日に日米和親条約が結ばれ、下田と函館の開港が決まります。そして、開港場での細則を定めた付録協定締結のため、下田に場所を移して交渉が続けられることになったのです。

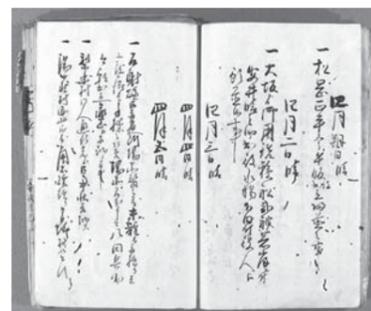
こうして、本郷村で反射炉の築造が進められる中、ペリー艦隊が下田に入港してきました。了仙寺で行われた交渉は、およそ3カ月にも及びました。その間、ペリー艦隊の水兵たちは下田に上陸し、あちらこちらを見物して回るようになります。彼らは、次第に下田港の周辺にも足を延ばすようになり、3月27日、その内の一人が、ついに本郷の反射炉築



反射炉御取建中日記
安政元年3月27日条
(公益財団法人江川文庫所蔵)

造現場にまでやってきました。その時の様子が「反射炉御取建中日記」に記されています。木戸を乗り越えて入ってきた水兵は、炭小屋や鍛冶小屋に入ったり、反射炉の石積みを見たり、水車の部品を見て水車の手真似をしたりと、もの珍しそうに敷地内を歩き回ったといえます。さらには、会所(現場事務所)に入ってきて、机の上にあった兵助の眼鏡をかけてみたり、置いてあった筆を取って名前を書いたりした後、立ち去りました。

水兵にしてみれば、ちよっとした散歩のついでに過ぎなかったのでしょう。しかしこのことは、現場の兵助をはじめ日本側の関係者にとっては重大事件でした。反射炉は、鉄



反射炉御取建中日記
安政元年4月5日条
(公益財団法人江川文庫所蔵)

製大砲鑄造のための、いわば軍事施設です。そこに、どのような目的であれ、外国人が入ってくるようでは、機密を保つことができません。現場から注進を受けた江川坦庵公は即座に、幕府に対して反射炉築造場所の変更を進言。幕府も事態を重く見て、事件から6日という異例の早さで、4月3日には田方郡中村(現在地)への築造場所変更を命じました。この決定を受けて、移転先見分の任を八田兵助が担うこととなります。4月5日の朝、兵助は本郷の反射炉築造現場を出発し、葦山へ向かいました。